



「人材育成課題」への取組み

…“情報システム分野における人材育成のあり方”…
将来に向けた行動計画立案を導く共同作業のための
骨格創りを求めて

Part 1

(人材育成委員会・検討作業チーム)

@平成18年2月

産業界で何が問題視されているか？

- 経団連6月21日の提言…「産学官連携による高度な情報通信人材の育成強化に向けて」
 - トップレベルの「高度ICT人材」の新卒者の輩出が急務。
 - トップレベルの高度ICT人材新卒者を毎年1500人規模。将来3000人規模へ。
 - 情報サービス産業(組込みソフト含む)の競争力が産業全体の競争力を左右
 - 国家戦略下で、育成機関としての大学・大学院の実践教育機能強化の体制整備が必要。
 - 10校程度の大学・大学院を先進的実践教育拠点として指定(新設)し、高度なITの専門教育や、ソフトウェアの開発手法等の研究開発を行うべき。
 - 産学官連携による取組みを強かに推進するべき。
- 経済産業省 …「ITサービス産業における新卒人材の採用に関する実態調査」(平成17年3月)
 - 「…新卒人材に対する要望は「優れた人材」「即戦力」など、きわめてとらえどころのない表現に留まっており、期待する大学・大学院卒業生の像を明確に描ききれていないという意見は少なくない。…」
 - 「…一方では、情報工学の専門教育を受けてきた人材が、ソフトウェア開発環境等の現場において専門教育で学んできたことを必ずしも十分に活かしかれていない状況にあると見る向きもある。」
- 文部科学省 …「高度情報通信(IT)人材の育成に向けた文部科学省の基本戦略」(H17年8月)
 - 「ITに関する教育を重点的に行なっている高等学校を指定し、当該指定校において、先進的な教育方法の研究開発を行い、その成果を普及する。」(IT人材プロジェクト・研究開発事業)



- 即戦力となる新卒者が不足！
- 大学(院)で即戦力教育をして欲しい。他方で、
- 実業界では「情報系卒も他学科卒も差異がない」という回答があり、矛盾している。

課題の構図

- 経団連の提言(6月21日)を始め、情報システム分野における人材育成について、各種調査と危機感あふれる問題提起と対策提案がなされてきています。
 - しかし、これらの提言が言及する対策だけで、「本当の意味の解決」「人材を育てる仕組み」になっているのだろうか？という素朴な疑問が湧いてきています。
 - 問われている対策の、その中身を裏付ける内容がこれで十分なのだろうか？
 - 情報の捉え方に関して、知識→考える→理解する→スキル取得へと身に付けていく過程を創り上げていくことができるのだろうか？情報に対する感性と根本的な思考様式のレベルから掘り下げた対応策を組み立てる必要があるのではないか？
 - マイクロソフトは基本ソフトの世界で画期的なアーキテクチャ(モジュール構造)を作り上げました。しかもそれは、さまざまな人間活動(業務)を抽象化したもので、ギリシャ以来の思考の歴史を反映していて、だからこそ世界中で90%ものシェアを占めたのです。応用ソフトの領域ではSAPがそれに相当します。
 - 翻って、日本を振り返ると、ソフトウェア分野で普遍的な世界を創れているものはあるでしょうか？(組み込みソフト分野での強みはありますが。)
 - また、日本で巨大な金融システムをすりあわせて作るとしても、前提としてアーキテクチャとモジュールを的確に作るプロセスを避けて通れません。
 - このプロセスを避けると、ソフトウェアを作る前に、これからの産業構造自体を作っていくことがむずかしくなります。
- ↓
- 情報システム学会では、以上の基本認識に立脚して、人材育成課題に取り組むこととしました。
 - 日本として、他に類例のないほど抜きん出た普遍性を求める、独自で独創性の高い情報システム人材の戦略的な育成のあり方についてビジョンを構築し実践すべきではないか？

学会としての取組みの基本構図

- 情報システム分野における人材育成について、各種調査と危機感あふれる問題提起と対策提案がなされてきています。
- しかし、これらの提言が言及する対策だけで、「本当の意味の解決」「人材を育てる仕組み」になっているのだろうか？問われている対策の、「その中身を裏付ける内容」がこれで十分なのだろうか？という素朴な疑問が湧いてきています。
- 根本的な原因を考察し本質的な対策を組み立てることを情報システム学会では目指して、人材育成調査研究委員会を発足します。
 - 情報システムの原点に遡って捉えるとき
 - 個人・組織がその活動において必要とする基本の単位が「情報」にあり、個人と組織からなる産業や社会活動を「問題の発見と分析、改善の活動」として捉える。
 - 今後の情報化社会における人材育成の本質的な課題
 - 「情報の取り扱いに関する能力の高度化」を図ること
 - それは、「情報に対する感性」と「根本的な思考様式のレベルから掘り下げた対応策」を組み立てる必要があるのではないか？
 - 情報の捉え方に関して、知識→考える→理解する(モデル化するプロセス)、その上でスキル取得へ向かう過程を創り上げていくことができるのだろうか？
 - その中核として、「論理的に考え表現する力を育てること」を対策の中核にすべきではないか？
 - 実は、この基礎的で根本的なアプローチが、産業界で求められる即戦力の基礎能力を高め、また実業界において悩める課題を解決する対応策となると考える。
 - 従って、根本的対策の出発点は、実は初等・中等教育の段階にまで遡って、教育内容と教育手法の開発、教育人材の育成を行い、実施することにあるのではないか？



